

青年対策交流集会

報告者 全港湾塩竈支部塩竈分会
渡辺 康太

協定について

36 協定と産別協定について学び、働く人を守るための仕組みの大切さを強く感じました。

まず 36 協定とは、法定労働時間を超えて残業や休日労働を行う場合に必要となるものです。

企業が一方的に長時間労働を命じるのではなく、労働者側との合意を前提としている点に、大きな意味があると思いました。

しかし、協定があるからといって長時間労働が当たり前になってしまう危険性も感じました。本来は例外的に認められるべき時間外労働が、慢性的になってしまえば、働く人の健康や生活に悪影響を及ぼします。実際に過労による問題が社会問題化してきた事を考えると、制度の存在だけでなく、その運用の在り方が重要だと感じました。

また、産別協定は産業別労働組合などが中心となり、業界全体で労働条件の基準を定める仕組みです。会社間の不公平を減らし、最低限の労働条件を底上げする役割を持っていると理解しました。特に中小企業などでは交渉力に差が出やすいため、産業全体での協定は大きな意味を持つと感じました。

これら二つの協定に共通しているのは、労使が対等な立場で話し合うという考え方です。ただ法律があるだけではなく、実際に働く人と使用者が協議し、合意することが重要だと思いました。

36 協定と産別協定は、働く人の生活と健康を守るための大切な仕組みであると感じました。制度を正しく活用し、よりよい労働環境を築いていくことが大切と感じました。

災害時における港湾従事者について

日本は地震や台風、津波など自然災害の多い国であり、港湾はその最前線に立つ重要な拠点です。

東日本大震災では、多くの港湾施設が被災し、物流が長期間停止しました。その経験から、港湾従事者の役割の重さと責任の大きさを改めて感じました。

まず反省点として、対応の遅れや情報共有の不足です。

教訓として最も大切だと思ったことは「自分の命を守ることが最優先」であるということです。港湾は危険物や大型機械を扱う現場であり、災害時には二次災害の危険も高まります。まずは迅速に避難し、安全を確保することが大切だと思いました。

今後の具体的な行動として、第一に防災訓練への積極的な参加と知識の習得を徹底します。避難経路や緊急連絡体制を日頃から確認し、いざという時に迷わず行動できるようにします。

過去の災害の反省と教訓を風化させることなく、東日本大震災を経験していない人に伝えて、一人ひとりが責任ある行動をとることで、より強い港湾体制を作っていければいいと思いました。